提唱

佐伯史談会

今年度の二大事業

佐伯史談会
副会長　羽柴　弘

(一) はじめに

今年の佐伯史談会はいそがしい。数年前から念願の、栂牟礼城趾にその存在を三百年五百年後まで、はっきりと残す、巨大な石碑を建てようとしていること。今一つは、今年が西南の役百周年に当るので、豊日国境の山岳地帯で血戦をくりかえした、いくつかの古戦場を踏査し、最後に佐伯市岡の谷の招魂所（陸軍墓地）で、盛大な慰霊祭をしようというのである。

前者栂牟礼については、中世に於ける佐伯氏後半の歴史は、この山城を扇の要としているし、中世佐伯氏のあり方を愛慕する佐伯人にとっては、全く心のよりどころである。

後者については、史談会員だけでなく、遺族会や警察署、外郭関係庁や団体との共催、または協力を求めたい。いずれも、ふる里佐伯の歴史を大事に守りつづけようとする、史談会としては画期的な事業である。会員各位の協力・支援を切望する次第である。

(二) 栂牟礼城趾

栂牟礼は高さ僅かに二百三十メートル位どの小山に過ぎない。池船橋付近から眺めると、西の空遠く高峯椿山に抱かれているように、屏風型の黒々と見える山が栂牟礼である。

地図には栂牟礼山と出ているが、牟礼は朝鮮のことばから来ていて、山または峯を意味するそうであるから、牟礼・山と重ねる必要はない。

佐伯氏十代護摩守惟治以来、十四代惟定まで約七十年間、佐伯氏はこの栂牟礼に拠って勢威を振っていた。そして大永七年十月、惟治謀反と疑われ臼杵長景の率いる二万の大軍を迎えての、有名な栂牟礼合戦の舞台となったのであった。今訪ねて見ると、中世の山城で石垣の跡一つなく、本丸・二の丸とそれに通ずる屏根道に、何か所かの空堀を見ることが出来る。

史談会は新年早々の三日初歩きにまずこの栂牟礼に登り、駒をはずませながら「栂牟礼城趾」の石碑を高々と打ち建てようと話し合った。また二月十一日の役員会でその具体的取進めを決定した。

栂牟礼の山頂本丸跡には、今枯草の中に小さな石の祠（ほこら）が十基ばかり、早春の陽だまりに静かに立ち並んでいる。しかし的確に、ここが城跡であることを示す文字がないので、登山した人々に語りかける、古城趾回顧の手引きがなく、写真をとるにも舞台・背景にこと欠いている。

栂牟礼・佐伯氏の歴史は、佐伯の人々の歴史である。そのシンボルのように、栂牟礼山頂に高々と、

史跡　栂牟礼城跡

の碑が、佐伯史談会の手によって建てられようとしている。

佐伯氏の歴史は、はるかに数百年の時の流れの彼方にあって、ともすると現在の私達とは関連ないかのように考えがちである。しかし江戸時代の毛利氏とはちがい、私達の先祖たちは懸軍万里戦場をかけめぐり、生死を共

にして来た。その血脈は今私共の[illegible]に受けつがれていることを忘れていない。

若き日の岡本田独歩は、明治二十七年二月、鶴谷学館の生徒と共にこの栂牟礼に登ったことを、その日記「欺かざるの記」に、次のように書き残している。

栂牟礼山は佐伯を距る西一里にあり。旧跡なり。豊後遺事に曰く、

大友到明公ノ時、栂牟礼城主佐伯惟治ノ謀反ヲ聞ズル者アリ。公臼杵長景ニ命ジテ之ヲ討セシム。栂牟礼城固ヨリ堅ニ、士卒亦勇ナリ。長景屢〻攻ムレドモ勝タズ。

この文の如く此山甚だ嶮峻なり。吾等九人、三隊に分れて登攀す。

城址見るべくもあらず。ただ一たび城址に茂りたる松、老いて薪となり、今や朽株処々に点在するのみ。もってこの城址の甚だ日きを知るに足る。

天曇りて雨時々峯を掠めて来る。四方の光景暗澹たり。火を燃して暖をとる。

城趾建碑には二十数万円の予定をもち、今回は敢えて会員の建設費負担、寄付によることなく、このようのことのあるを予想して蓄積の基金によることにしている。しかし、会員皆さんの声援参加が望ましいと思う。

(三) 西南の役

私は去る三月三日、蒲江町の会員富高君と共に、蒲江町葛原の津島島山に登った。

標高五〇六㍍のこの山は、十年ほど前から踏査を念願していたところである。西南の役の古戦場で、明治十年七月十六日の掛瑞、薩軍の白刃斬込みをうけ、五十名余が死傷者を出すという、官軍敗退の古戦場である。

百周年目の同じ七月十六日、この古戦場を訪うための登山路の調査のためであった。ここだけでは故、四月四日（別記の通り決定のように）三国峠、五月上旬陸地峠と踏査をくり返し、今秋九月下旬の陸軍墓地における墓前慰霊祭を——という企画で、これについても会員皆さんの参加・協力を希望する。

明治十年（一八七七年）から数えて百年の今年、私共は史談会の立場から、官軍・薩軍の区別なく、同胞戦いあった不幸な歴史的事実を、身近にある古戦場を訪い、その墓前に「安らかに眠れ」と慰霊のこころを捧げたいばかりである。

会員外一般の方々からも、理解ある協賛がいただけたら幸いである。

（おわり）

第一次・西南の役古戦場めぐり

花の三国峠から三重・大飼へ

コース

（午前七時五十分）佐伯駅前発 → （八時六分前バスターミナル） → （国道十号線） → 大原 → 重岡 重岡墓苑（分署跡） → 千束 → 小野市 → 上津小野古塔 → 三国峠古戦場（昼食）薩軍戦死者の墓・歌碑 → （この日十時から三重町から三国峠往復のさくらマラソンあり） → 内山観音参拝（ご開帳中） → 三重町市辺西八幡参拝 → 菩生石仏 → 大飼石仏 → 久原 → （国道十号線） → 番匠 → 佐伯（午後五時半）

三国峠の戦跡を訪ねるのを頂点に守目町の古戦場をしのび、ことのついでに三重から大飼にかけての仏教文化をご学びたいと思う。

日時 四月四日（日曜） 午前八時大手前発 —— 午後五時四十分帰着

乗物 マイクロバス（定員二十五名）

其の他 昼食携行のこと、小雨決行、自家用車可

会費 一人 一、五〇〇円

申込み 会員優先、即刻電話のこと（佐伯 (3) 四四一二番）

定員一杯でメ切り、座席あまれば一般も可